

カリンニヨ ア ボリビア 通信 no.2 2003/11 発行

カリンニヨ ア ボリビア事務局 〒515-3532 三重県一志郡美杉村川上 31-1 ☎/fax 059-274-0192

<http://www.ken-san.net/bolivia/index.html>

もくじ

- 日本を出発してからの経過
- 瀧本里子の ボリビア便り
 - お知らせ
 - 活動経費について

結婚しました 2003/11/27

こちらの様子ですが結婚式には一と結子ちゃんと深尾藍ちゃんが来てくれ色々と力になってくれました。

日本からわざわざ来てくれてとても嬉しかったです。

結婚祝いを送っていただいた人、メッセージを送ってくれた人たち、遠いところにいるのに気にかけてもらっているんだなと嬉しいです。結婚前と結婚後、何が変るのかと思っていましたが特に変わった事はないですね～。

だんだんと実感がわいてくるものなのかしら？

結婚を機に、このボリビアのこの地でもう旅行者ではない、自分の人生をここでやっていくんだという自覚をもって、二人で楽しい家族を創っていきたいと思っています。そしてカリンニヨの活動ももっと中身あるものにしていきたいと思っています。

日本からの二人はとても元気だった当初はあまりの暑さに夏ばて状態だったようですがだんだんと体が慣れてきたようです。結婚式の準備やらで私は殆どでっぱなしで申し訳なかったですが町へ散歩に行ったりとのんびりと過ごしていました。

結婚式の後は予定外でしたが、藍ちゃんの強烈なリクエストに応え、ペルーのマチュピチュまで行きました。

マチュピチュでは日本人のツアー客が多いのにはびっくりしました。ガイド料をケチった私達はひたすら日本人ガイドの後にうろろとついて周り盗み聞きしていました。

JTB のツアーで来ていた人に聞くと、ペルーのマチュピチュ、クスコ遺跡とボリビアのチチカカ湖、ウユニ塩湖ツアーを組み合わせたツアーは殆どないということでした。私達とならそれが可能だ！！と藍ちゃんと盛り上がり、藍ちゃんが日本でツアー客を募り、コンダクターでボリビアまでつれてきてそれから私達が通訳で案内しようという計画もたてています。

マチュピチュは、本当に天空の城 ラピュタの世界です。スケールが違う・・・！という感じ。

ボリビアに帰った今も目をつぶればあのマチュピチュの石で組んだとんがり屋根の町並みが浮かんできます。

ペルーはほんとに遺跡のオンパレードで、車で走ると遺跡だらけです。私達は今回、全て陸路で移動しました。

みんなで行っていただけで南米の旅行は体力勝負です。皆さん若いうちに、是非おいで下さい！！

～経過～

- 4/18 成田発で ボリビアに出発
生活基盤を整えるために 家探しから始める
- 5/1 農業者の講習会に参加
プロジェクトの活動の予定を立てるために地域を巡回
- 6/1 移動に不可欠な 車をついに購入。トヨタハイラックス 95年型 4WD車
エコサントイレなど
- 7/8 帰国報告会をした 美杉中学校から 中古のリコーダーが届く
- 8/17 日本で NGO 研修のための 派遣の面接を受けた AMDA から 派遣要請が来た。
短期派遣という事で ホンジュラスに出発。
- 10/9 コマラパの留守宅に泥棒が入ったという知らせを受け 大ショック！
- 10/28 派遣の任務を終え、ボリビアに帰国。
- 11/15 一緒に仕事をしている Pablo Flanco さんと結婚式をあげる。

● ボリビア便り～ 今回はホンジュラス便りも入っています。

4月18日 到着

さてさて、ボリビアに到着しました。今回は飛行機乗換えが多く、やっとたどり着いた・・と感じです。ついたときは少し小雨が降っていました。4月いっぱい生活基盤を整えるべく、動こうと思っています。今はサンタクルスの町にいて、明日から現地に行く予定です。今のところ体調はとてもよく、サンタクルスの気候もいいです。4ヶ月ぶりのボリビアはなんも変わってないし。

4月27日 活動開始

はやいもので一週間。昨日まで2日間。現地に行ってきました。今日は車を見に町に降りてきています。ちょっと状況が変わってきていて、とてもいい方向に向かっていると思っています。かいつまんで話すと、私が着いたその日に今回の協力先機関であるC I A Tがシベリアという私たちの対象地域の一つである地域をターゲットにハウス栽培の大きなプロジェクトを申請しようと企画書を書いていました。私も手伝えということで、色々アイデアを出し合っていたら、すごく私たちのプロジェクトと重なるところがあり、オリビアともよく話して、別々に動くより、一緒にターゲットを絞った方が効果的だということで、5つの対象地域を少し減らしシベリアを中心に3つに絞ることにしました。シベリアは往復2時間半かかるところで標高は3200mです。(お父さんたちは行ったことあります)この地域も電気も、水もないのですが、そこに一家族に一つハウスを立てるプロジェクトで、そのお金は全て政府から出ます。私たちが出すのは、活動費、経費その他です。なので、今はオリビアともう一度見積もりをやり直しています。オリビアも、他の人も私が、NGOを持って帰ってきたことをとても喜んでくれています。ボリビアに着いたときは自分でも意外に、日本がなつかしく今回は協力隊と違って無期限なので、少しさみし～な。という気持ちになりましたが、現地に入りなつかしい顔ぶれに会うとそんなのは吹っ飛びました。2日目は朝5時からおきて現地に4人で出かけましたが車が途中でエンコして2時間車修理をしながらも現地の人と再会しました。今は、車の購入が先決なので、それについて動いています。また、書きます。

5月1日 150円の命

昨日はコマラパ中、オレンジのユニフォームの人が歩いているかと思ったら「ピンチュッカ」シャーガス病の原虫、さしがめ退治をしていました。私は協力隊時代それほど気にしていなかったけど、昨日はじめて聞いたらそれはそれは恐ろしい病気なものでした。サシガメは、カメムシのオスに似ており結構でかいです。それがアドベ(土壁)の家から入り込み人を挿します。挿した後、一周回って挿したところに糞をします。その糞に沢山の病原菌がいて心臓、内臓に周り死に至ります。潜伏期間は5年から20年。聞くところによるとサンイシドロ、コマラパの住民は、60%の人がシャーガス病でなくなっているそうです。慢性になると治す薬も無いそう。この現実私は知らなくて、今更ながらうっへーと思ってしまいました。

昨日、3ヶ月前新しく赴任した協力隊の人を訪ねがてら病院に行くと、ショッキングな話をしてくれました。「一週間前に栄養失調で来た子どもとお母さんが、お母さんがもうお金が払えなくてこのまま病院にいたら他の子どもが死んでしまうので、死ぬのがわかっている子どもと今日帰っていった。もうあの子は生きていないと思う」

「お金が払えないっていくら？」

「10ボリビアーノス(日本円で130円).....」

こんな毎日の状況にでくわし対処している看護婦職員は精神的にすごいな、と改めて思いました。

今日はロスピノスに行ってきましたが、久しぶりの挨拶もそこそこに

「お願い。里子。奥さんが病気だからお金を貸してほしい」と言われ、正直「・・・始まった」と思いました。狭いグループの中、一人に貸すと、あっという間に話は広がりにみんなに貸さないといけないのも目に見えてるし、絶対返っては来ないし、でも現実本当に病気で、そのお金がないと病院にいけない。こんな話は沢山あります。これから現地に入ると、必ずあるのがこれ。始める前にはっきりは言っても彼らもどうしようもない場合もあるし。

ボリビアに帰ってきて、前途洋々・・というより現実が見える日々ですが、その中でやれることを少しずつやっていこうと思っています。

5月10日 農業講習会

昨日までの一週間トララパというところでとても興味深い講習会があり誘われて参加してきました。

参加者は農業関係者ばかりで、農業機関が活動しているプロジェクトの分析や普及方法の見直しで私たちの活動も確立されている農民へのア

プローチなども考慮に入れながら活動していきたいと思いました。私はこんな機会が有る事自体驚きだったけど。一日目は「ボリビアの貧困について」の講習会があり「貧困対策」又は「貧しい人の為に」活動する、ということがどうということなのか、ボリビアならではのテーマで活動を考えるという事を行いました。

私は困ったことに専門家集団になると、語学力が追いつかなくて理解するのに精一杯で半分スペイン語の勉強に来ているようなものだったけど理解する限りではとても面白そうな内容でした。

「貧困」ということを「何を貧困と指すのか」を分析し、5つのレベルに貧困を分け自分たちが活動している地域がどのレベルに入るのか、一つ一つの地域に対してどのような問題があり強化部分と、弱点を分析し活動の基盤となる考え方や、適切なアプローチ法などを考えました。この時点で私が活動する地域は、教育環境、医療、飲料、電気、平均寿命などなどの項目からも一番下のレベルにいることが判明しました。

この様な種類の地域で活動するとき一番に考えなくてはならないのは、直接「収入」に繋がること。多くの農業機関が「調査」を目的に農民と活動しています。貧しい、時間も無い農民の時間とお金を取り、データだけ取って去っていく、このデータは多分どこかには生かされているのだと思うけど農民の生活は殆ど変わっていないのが現状です。

実際に農耕動物の耕作機械の導入や、病虫害対策など貢献している部分も沢山あるけど ボリビアは、農民と技術を持っている人の差があまりにもありすぎる、という感じもします。あくまでも、技術者は技術者である、というかここにも貧富の差が現れてるという感想。

話は変わって開催された場所が3800mの高地で町から遠く離れた試験場です。今はボリビアは冬に入っていて、ここ高地は最低気温が-2℃にもなり朝起きると霜が降りています。ご飯を食べるとそんなに食べてないのにお腹がパンパンになるし、いつも胸がドキドキしています。でも講習会は一日中部屋の中で、3食食べて午後が終わるのは8時なので後は寝るだけ。体がなまってきて3日目にはバレーボールをやりました。5分もしない間に息が上がってきて、心臓がすごい速さで鳴っています。参加者は殆どが男性で、女性は私とオリビアともう1人だけでした。カリンニョの方は現地に早く継続して行きたいのですが車がまだ買えてないので、誰かが行くときに限られているのと、シベリア地区はCIA Tとの関係があるので打ち合わせをしている段階です。こんな感じです。

5月18日 グループ活動の難しさ

また話は変わるけど現地で最近グループのメンバー同士の諍いが起っていて「あの人は作業に来ないのに収穫だけしていく」とか「私の水を使っているのに分け前が平等なのは変だ」とか。

やる前に口約束だけで誓約書を書かなかったのが悪かったのかなと思っています。収穫が始まったらこの有様です。一人一人、直接本人に言わないで私に言ってくるから私はなるべく公平な立場でありたいと思うけど、ロスピノスの人に共通して言えることは「時間がない」ということ。

サンシンドロやコマラパの「主婦プラスアルファ」の人と違って女性も男並に働く地域だから時間が無いのです。言ってくることもそれなりにシビアだし。今までCIA Tの普及方式に乗っ取ってグループ作りをして、共用の土地で共同作業をして分け前を平等に分けると言う「参加型」でやっていたけどその方式がこの「個人主義」の地域や特質には当てはまらないというのをぼちぼち感じています。でも、昔のインカ時代の習慣で昔の日本みたいにみんなで手伝ってそのお返しを又労働で返すという習慣も残っている部分もあるので上手くそれを利用したらいとも思っています。

オリビアは昨日のCamp oでは「もうやる気がないなら手をひこうよ」と言っていたけど私はそうじゃない、やる気がないんじゃないかってやっぱり「コーディネート力」または「問題提起能力」の問題だと思っています。力のあるまとめるリーダーがいないということ。それが出来ないからって無数にある地域をいいことに地域を変えても何も解決はしないので私はオリビアが変えたいといってもよく話し合いたいと思っています。、全く方法を変えてやることも考えて。

昨日、一人の女性が「もう野菜は冬は水が無いし出来ないから羊をやりたい。羊はいつ来るの？」

といったから私ははっきり「水がないかは、今年はまだやってないからわからない。この活動はあくまでも主体は野菜だし私は冬野菜を試してみたい。羊っていても贈り物じゃないよ。今の野菜の活動状況をみてあなたたちがどんな熱意を持って活動するかで羊をどうするか決めたい。無駄に終わるのは嫌だしそんなお金もない」といいました。その女性はちょっとムツとして帰ってしまったからどうだったのかわからないけど頭にフツと「鉛とムチ」という言葉が浮かびました。合ってるかどうかかわからないけど。人間って言うのはこうやってなだめてすかして人間関係を保っていくのかなって。

今のところ毎週水曜日はロスピノスに、木曜日はベルデシージョに行ってます。シベリアプロジェクトの方は私の履歴書を出して正式に契約を結びました。競争段階なのでまだ本決まりではないけど。

CIA Tとも正社員という形ではなくてあくまでカリンニョとCIA Tの提携活動という形で持っていくつもりです。今のところかなり幸運にCIA Tのオフィスとか使って仕事どころかお茶もして、パソコンも使ってるし時々電話ももっちゃってるけど（ただで）彼らもふと気がつけば、なんの関係もない気がつかれたら放り出されるかな？

車の免許は、試験があると思いきや、お金で買ってしまった。ただこっちの市民権がないので6ヶ月間の普通免許だけど。日本の免許も見せなくて、ただパスポートだけ。それもきちんとした運転免許書センター（日本の場合は想像しないように）で警察官が「免許？29日から一週間7時から9時まで試験。それが嫌なら今すぐここで150ドル出したら明日に発行しますよ」とか普通に言ってるし。

写真も写真を取る人が間違えてバックを赤のプロフェッショナル（大型とかタクシーも運転できる）に取ってしまった一回突っ返されたんだけど、写真屋が「いいの。いいの。」と言って「そう言ってるけど」と戻ってくると「・・・ま、いいか」とプロフェッショナルの免許書をゲットしてしまいました？？いい国だな～。他の国には通用しないことばかりだけど。

私が、協力隊の時に伊藤さんと一緒に言った調査活動で申請した村落開発普及員のコウジナさんという隊員と最近よく会ってるんだけど、あったまいいな～って感じで（阪大卒）たった4ヶ月でどこでそんなに知識と情報をどうやって？っていうくらい情報量が豊富です。参加型開発手法というの色々知っていて（よし徹底的に学んでやる）と腹を決めました。今週は土曜日一緒にCamp oに出るつもりです。

昨日はサンシンドロの誕生祭でまさか今年のに間に合うとは思ってもよなかったけど。みんなによろしく。

5月22日 野菜栽培と改良かまど

今日はとても暑い日でした。こちらの太陽は本当に「危険な太陽」だと言うことが実感出来るくらい痛い紫外線です。

今日は、夏の活動の反省と、冬の活動を描くのにみんな集まってもらいました。野菜栽培の中でも「大根」が大好評だったようで日本から持ってきた種を今度は栽培しようと言うことになりました。後は春菊は「花がきれい」ということでどうやら花の栽培目的になりそうです・・・

冬の活動は、冬の間は水もなく（乾季なので）また寒くて野菜の育ちが悪いので、各家庭でやることにして以前から彼女たちが言っていた「羊」と「ヤギ」の飼育をすることになりました。皆さんのお金の一部が、羊となり、ヤギとなり山羊乳となり肉となります。後から文句を言われぬように自分たちで選んで買うのが一番いいのですが、町まではとても連れて行けないので代表者を選んで買いに行くことになりました。もちろんただではなく、子どもが生まれたら、一匹は「カリンニョ」に返すこと。売った場合の最初の5%はグループに貯金することなどを決めました。カリンニョはその山羊を使ってまた次の地域につなげます。名づけて「羊銀行」病院調査でもこの地域はかなりのたんぼが質不足なので、肉や大豆などから補えるようにしたいと思っています。どなたか「豆乳」の作り方、また大豆を使った美味しい料理法などあれば教えてください。醤油や、油をあまり使わないで、塩、砂糖、小麦粉などで出来るもの。肉も今はこっちは洗濯物のように干して

「干し肉」として使っていますが、ベーコンや肉を使った食品加工などもやりたいと考えています。

動物飼育の活動の他にどんな知識を持ちたいか、どんなことを覚えたいかというのを自由にもらったら「料理」「ジャム」などが出ました。料理は殆どじゃがいも、肉がちよっぴり入ったスープが主食です。後は「栄養知識」「健康」「編み物」「刺繍」「薬草」「公衆衛生」などです。これらは私たち普及員が自分で勉強するなり、又はスペシャリストを呼んでくるなりしたいと思います。

今日、グループの一人がお昼ご飯を食べていなくて「どうしたの？」と聞いてみると

「体の調子が悪くて病院に行っても何も無いと言われるしでも直らないので絶食をして、神様にお祈りしている期間だから何も食べない」と言っていました。「水も飲まないの？」と聴くと「そう」らしいです。

この辺の人はそうやって治すことが多いらしい。それでなくても毎週土曜日に近くが一番高い山に登って絶食して一日中お祈りをするという人も多いです。体が調子悪いときこそ食べて元気にならないと・・・と思うのですが。

そんな感じで冬の活動に入ります。それと並行して、村落開発普及員と（協力隊の）改良かまどの製作もします。これは、薪の使用量が4分の1に減らせ、煙も出ないとても環境的なかまどらしいです。今は石を重ねてやっているのでもどんな効果があるか楽しみです。

5月24日 ヤギと鶏

お元気でしょうか。いよいよ現地へ行く回数も増えて活動が具体化してきました。村落に入る、と言うことはただ「野菜だけ作ればいい」というものではなくかなりマルチな知識が必要とされるということに直面しています。野菜から入ったグループが「冬の活動は羊を買って肉を食べたい」「山羊を飼って山羊乳を子どもに飲ませたい」という意見になったことは前回書いたと思います。

私は、山羊も羊も飼ったことがなく、だからと言ってだめというわけにもいかないし、誰か知っている人に聴きながらやる、まさに「一緒に学びましょう」の姿勢でやるしかないです。今は、羊一頭当たりどれ位の餌を一日食べるのか、から始まってそのコスト計算と、最初は羊を与えるが、次の活動へと繋がる為に子どもを一頭は返してもらい、又、共同資金（小屋修理代、薬品代）を預金する制度を作るべく「契約書」を作成しています。

きっと、山羊の乳が出始めたら「チーズの作り方」も覚えないとだし、肉では「食肉加工」も覚える必要がありそうです。

もう一つの地域では「養鶏がやりたい」と意見が出ています。卵は完全栄養食品だから、これは推進する価値はあるのですが私は養鶏もまともによったことはありません。地元の養鶏プロジェクトに一から聞きながらになりますが、私の友人の（日本で）養鶏を何年もやっている面々が思わず浮かんでしまいました。

殆どのプロジェクトは、2年スパンで引き上げてしまうので自助努力では100パーセント維持できず、ほんの些細なことでつぶれてしまうというケースがこちらにあります。

私たちのカリンニョも今のところ2年予定ですが、さてどこまで自助努力推進できるか・・・

一回目は援助が入ってもなるべく自助努力ができるように持続可能な経営が各家庭でできるようにというのを重点において活動するつもりです。それにしてもこんな「付け焼刃」でいいのか？と毎日思っていますが、やっていくうちに「パーマカルチャー」の勉強がしたくなってきました。もっと一つの集落で自給自足出来るような方向で進んでいけばいいのにな・・・と。自然の資源を最大限利用して現金が要らない生活。植林、野菜、果樹、穀物、飼料、養鶏、牛、豚、最低小さな循環システムが出来てくるくらいの規模で村が互いに役割を担えば、生産コストも下がるだろうし、もっと総合的にみんなが潤いそうだなあって。

ぼんやりとした構想ですが、地元の協力隊や、配属先の仲間の力を借りて暖めていきたいなと思います。

先日、協力隊の村落開発普及員と行った地域では、「参加型開発手法」を使ってどんな状況か先ず調査をしようとする、「調査はいいから、お金はどれ位持ってくるの？」「いつ持ってくるの」とすごく直接的でした。かなり「援助慣れ」しているのか生活が切迫しているのか。今までのプロジェクトの評判なのか。

「どここのプロジェクトは道を作ってくれたからすごく良いプロジェクトだった」

「どここのプロジェクトは調査だけして、いいことだけ言って何も私たちにしてくれない」と評価もかなり偏っています。というか、「良い」「悪い」の基準がかなりはっきりしている彼らだからこそとても明確な答えだとも思ったけど。

先ず、彼らに「もうどここのプロジェクトも「贈り物」だけする時代は終わったんですよ」と自覚してもらって、自立できる方向で一緒に道を探していくのかなと思います。私もまだまだ「通い」の身なので、どれだけ彼らの身になって立場にたって考えられているかと問われると自信は全然ないですが。

6月13日 必要な時に 必要な事を

「女性」「総合的」「草の根」がキーワードのカリンニョの活動ですが、最近注目されつつあるのを感じます。私たちは、動物もやるし、改良かまどもやるし、畑もやるし、果物もやるし、トイレも作るし、足りない知識は色んな地元の機関にたずねていって情報を得ます。

すると、行く先々で私たちのプロジェクトの内容を説明すると「総合的」又は「現地の要請にできるだけ

広範囲で応える」というのがなかなか組織になるとできないことで、または、スポンサー（お金を出す人、お金を操作する人）と、現地普及員の差があり経済的な面でなかなか思うように進まないそうです。

そこへ行くと「カリンニョ」はお金は銀行にあり、スタッフは私一人なのでまさに「必要なときに」「必要なことを」すぐにできるのです。一緒に活動しているC I A Tは「お金がまだスポンサーから届かない」「支払いが滞っている」の問題がしょっちゅうあり、ガソリン代にも事欠くこともあります。私は、気楽でもありますが、スポンサー（みなさん）とは責任と信頼だけの絆ですよね。

現地で活動していると、「女性」を対象にするだけではいけない、と問題意識も感じています。

今まで2人の女性がだんなさんの嫉妬？によりグループを去りました。（新しく3人入ったけど）女性が男性のように働くこの地域では、だんなさんが奥さんが特定の時間を持つ事に嫉妬を感じたりまた、働く時間を惜しんだりするということがよくあり、マチスモ（男性優位）の関係では、なにかも男性しだい・・・なのです。だから私たちの活動ももっと幅広く女性だけでなく、家族、子どもも含めた活動を描いていきたいなと感じています。

そうそう、カリンニョ ア ボリビア という名前は私が付けたのですがやはりちょっと変？らしく新しく名前をかながえなくてはいけないようです。日本でも、ボリビアでも通用する名前、募集します。

6月13日 てんじくねずみ

たんぱく質摂取増加キャンペーンとして（？）てんじくねずみ飼育を始めています。かなり野生的な品種でなんでも食べます。とりあえず10匹私の庭で増やしてその後グループに分けるつもりです。

こちらでは「クイ」というのですがお腹が減ると「クイ、クイ、クイ」といって鳴きます。

食用とはしんじがたいくらいのかわいさですが、しばらくクイの観察に夢中になる日々がつづくでしょう。

6月14日

お久しぶりです。ねずみ・・というウサギに近いすんごいかわいいアニマルです。
私は自分が飼っているのは絶対食べれないけど機会があれば食べてみたいです。とうもろこしのしんまで食べる屈強なやつらです。
発酵食品・は、地酒のチチャくらいでしょうか。色々な発酵方法があるらしいですけど前は菌なしの
おばあさんたちが口でクチャクチャやって酵素で発酵させていたらしい・・・
他にはみかけませぬ。今年は大根を沢山植えて切干大根をつくってみたいとも考えています。
冬の野菜がない時期は殆ど野菜を食べないので保存食にもトライしてみたいです。
生ごみ堆肥も作っていますが、最近ではてんじくねずみのかごの下にミミズ堆肥を作っています。
コーヒーかすをいれるとすごい勢いで繁殖するのはびっくりしました。

てんじくねずみはまさに飼いがく、すぐおおきくなるというのが最大の利点だと思います。
ウサギも2匹飼っていますがウサギはてんじくねずみほど何でも食べず食べ物を選ぶし、病気にもかかりやすいです。テンジクネズミはかなり野性的・・と言う感じです。

日本でも以前食べていた時期(時代といったほうがいいか)があったのは知らなかったです。
そしてその弊害も。今は最大10家族だし、大きなプロジェクト化する予定はないですが、その点は心得たいと思いました。なるほど・・・
てんじくねずみだけに偏らないように、多様なものをバランスよく、ということですよ。

鶏は一番最初に考え、一つの村からも「鶏を飼って卵を食べたい」という声が上がっていました。
卵は完全栄養食品で、こちらでは卵は「ごちそう」レベルです。値段もそんなに安くはないし
(卵3つでパンが4つ買える)卵がもっと気軽に食べられたらいいなと思い、養鶏は望むところでしたが生産コストを計算してみると少し難しく
地鶏は毎日卵を産まないで、卵を毎日産む鶏を持ってくるとしたら飼料の面などや今の気候(冬に雛を持ってくる)を考慮しても少し
計画を練って準備しようということになりました。せつかく雛を入れても飼料が途中でなくなってしまうしょうがないですから。
将来的には是非やりたいとかがえています。鶏糞も取れるし。だれか、養鶏いっしょにやりたい人いたらいいんだけど・・・

6月24日 車の購入

お母さんから送られてきた支援者リストと金額の整理をしていて、恥ずかしい事に初めてじっくりと
支援者の名前を見たことに気が付きました。中には「え？この人〇実顕地で養豚一緒にやったひとだー」とか「ええ？この人もだったんだー。
道で出会ったのに御礼も言わなかった・・」という人がたくさんいました。そしてもちろん全然名前を覚えていない人も。これをいい機会に・・
とおもい全て手入力しながら初心に戻っていました。

>>★命より高いものはないよ。
> ◎そうなんだけど中古で買うからといってかなり慎重になっただけあって交換部品が出るたびに何か損した気分になるんだよね。でも最初
にきちんと代えるものを代えておこうと。こっちは日本みたいに信用第一とかなないから、日本人で若い女の子なのをいいことに「これ
も変えたほうがいい」「ほらこれも」みたいに無駄な買い物をさせられてないか、買った部品をつけるときにこっそり古いのに変えてないか
これは全て日常茶飯事にボリビアでは行われていることなので、部品の購入にはついていってつけてるところも しっかり見て・・・とほんと
つきつきりです。もうほんとに人間不信になりかけてます。

昨日はコマラパからサンタまで(お父さんたちと通った道)を一人で運転しました(もちろん横に人はいるけど)かなりつかれました。
6時間・・・

特にバスとかがぶつとばしてくるライトを落とさない車が殆どだし牛は突然出てくるし。
でも長距離運転をすることで車の性質や、道の感じも覚えた感じ。運転はきらいじゃないし。
極力サンタまでは運転というか車体使わなかつもり。なるべくコマラパーサンイシドロロスピノス間で使いたいと思ってる。同乗者
は「運転上手いけど、こわい・・」と言ってました。かなり慎重に運転したつもりなんだけど??

>>★車を買うのに なんで弁護士さんが出てくるの?自分で買うと色々勉強になりますね。
◎ボリビアはなんでこんなに弁護士が多いんだ??との答えになりました。先ず車の書類その他の手続きは弁護士を通して、書類の正確
さを確認し弁護士を通して 名義変更をします。この名義変更が超高くついています。きいてない・・って感じなんだけど。

弁護士にもべらぼうなお金を払ってるし。くやし〜・・・
> ◎自動車保険については今迷ってます。殆ど(アクシデント、対人保障、盗難)保障されるのが
年間550ドルです。かけるべきか・・・かなり車の修理その他で使ってしまったし、私がいる活動任地では民間でかけてる人はほとんど
いない・・っていうか車体も無登録なのや免許書持ってると人自体少ないけど。でも正規の農業機関などの車はスポンサーがかけてます。
どうすべきかな。と迷っています。

7月1日 DIFAR (ディファル) と ゲバラ

皆さんにお知らせがあります。名前変更しました。「カリンニョ」というのは私が付けたんですが日常的に、例えば恋人などを呼ぶときに「カ
リンニョ」と繁盛に言っていることなどもあってちょっとおもしろおかしい名前しかだったので変更する事にいたしました。

通称 DIFAR(ディファル)スペイン語で Desarrollo Integrado Familia Rural 日本語では「農村家族を対象とする総合開発」みたいなもの
です。ちょっと堅苦しい名前ですが現地のボリビア人が考えてくれたものなので。でも、メーリングリストや、日本では「カリンニョ」で問
題ないです。

活動の方は、ロスピノス地区では羊、山羊の飼育に当たったの勉強会を始めています。
今までの「クリオージョ」(在来種)を改良する為にいい品種を入れて交配させて羊なら肉を山羊なら山羊乳をとれるように改良するという
計画です。この計画は技術的には、こちらの専門家に協力をお願いしています。冬の活動計画は、現地の女性グループからで(羊と山羊をよ
くしたい)その申請を受けて専門機関に相談し今回これを試してみようという流れです。在来種はほっておいても、病気にも強く何でも食
べ・・と屈強ですが肉は乏しいです。

動物質たんぱく質が不足している彼らには、もしこれが実現したら栄養改善につながると考えています。
いい品種を入れるためには、先ずは飼料の確保です。今は、たんぱく質の多い飼料作物を一人ずつ播種し、屋根つきの動物小屋を建て、オス、
雌一頭ずつの山羊、又は羊を受け入れる準備をしています。

その間に、飼育に関しての経営、食物、衛生、についての勉強会を進める予定です。
話は変わって金曜日の夜から、週末を利用してバジェグランデというところに行ってきました。
ここは、チェゲバラのお墓があった所ですが6年前キューバに遺体は運ばれています。
私は、バジェグランデからさらに2時間上ったところにある「ライゲラ」というチェゲバラが殺された
所に行ってきました。30家族ほどの小さな村で、のどかな村ですが貧しさが漂っていました。

多くのボリビア人にとっては決してチェは英雄でも何でもなく、共産主義を持ち込もうとした侵略者と捕らえている人も多いです。興味もない人も多し。私と一緒にいったトーニョという青年は「僕もその時代に生きていたら多分殺しに来たと思う」とっていました。私の中のイメージは「家族も捨て理想を求めた男の人」という精悍なイメージだっただけに意外でした。もっとも私もよく知りませんが、

彼は最後 13 人の国籍の違う仲間と共に 400m の暑い地域から川を上り、3000m のこの村で彼を追いかけた兵士に捕まり、学校で処刑されました。

35 年前のことなのでまだ村には彼を覚えている人もいて「俺はスープを食べさせてあげた」「もう、病気でかわいそうだった」と生々しい話しをしてくれる人もいました。チェ ゲバラの本をくわしく読んでみたいと思いました。

7月3日 エコサントイレと乳児の死亡率

ロスピノスとベルデシージョの活動がメインでしたが、昨日一気に他の地区の 4 村落の地域からも活動の要請がありました。といっても各村落の要請に対応し、活動が多岐にわたると手もかかるし、お金もかかるし実際見切れないと思っています。

昨日はベルデシージョで改良かまどの製作をしました。HP に写真を UP する予定ですが

今まで使っていた石を組み合わせたかまどより薪量が 4 分の 1 カットされ、調理時間が 3 倍はよくなる！！という代物です。日本の「おくどさん」に似てるかも。このアイデアは地元のコマラパの村落開発普及員が改良かまどの普及をしていて私が覚えに行き今回ベルデシージョで作成してみました。出来上がりは上々でしょう。まだ燃やしてないのでなんともいえませんが、来週はこれを使って調理時間と、薪の量を従来ついていたかまどと比較するデモンストレーションをします。後は、トイレの普及もしたいと思っています。

昨日、帰り際グループのお母さんが子どもを連れてきました。見るからに熱っぽく感じるようで栄養失調の斑点も口の周りにできています。

「いつから熱があるの？」と聴くと 2 「2 週間前から」らしいです。「どうして病院に連れて行かないの？」と聴くと「お金がない」「5 歳以下はタダなの知ってる？」と聞くと「しってるけど薬代は高いから」

「このままおいておくと死んでしまうと思う。診察だけでもした方がいい」といっても渋っています。

とにかく連れて行って、病院に協力隊看護婦がいるから薬代のことは検討してみよう、と思い車で連れて行きました。私はその後仕事があったので看護婦さんに任せましたが、注射を打ってもらい、薬をもらい 70 ボリビアーノスの薬代を 10 ボリビアーノスまで下げてもらったようです。この辺りは 3 歳までが勝負時で 3 歳を越すと本当に強い子どもにぞだつたのですが、3 歳までの死亡率がとても高いです。お母さんからの母乳を離れ離乳食時期に、砂糖や塩など味覚形成時に味の濃いものを与えてしまい野菜などは殆ど食べなくなってしまうのも原因かと思えます。お母さんの意識も「子どもが野菜食べなかったらどうする？」と聴くと「ほっとく」と応える人が多いです。

後は、土や、汚染された水を飲んでしまうのも原因です。道は遠し。でも充実した毎日です。

7月10日 おちこんでいます。

今日は、少し落ち込んでいます。というのは、今日はロスピノスに行き、活動終了後いつものようにみんなでご飯を作っていました。

私はいつもお肉と、お米を持って行き彼らは持ってこれる野菜を持ってきました。

今日はいつものように全部をごったまぜにしたスープを作っていました。ところが、ふと見るともう一つお鍋が増えていて倍以上の量になっています。グループは 7 人。子どもや私たちも入れて合計 15 人くらいのはずなのに、まるで 40 人分くらいの量を作っているのです。

私は「なんでこんなにたくさん作っているの？」と聞くと「今日はジャガイモを沢山むきすぎたのよ〜。」とかいいながら来週の分のお米も入れています。私は一瞬ムッとなって「毎週、ちゃんと計算して持ってきてるんだから勝手に使わないで」とお米を入れようとしているおばさんに言いました。

その後少し、グループは険悪っぽくなって私もこんな事でここまで気にするとは思わなかったけど勝手に使うのはやっぱり悪い、と思い誤りませんでした。

その後、男性グループの仕事が終わって夕方打ち合わせをしていたら Ernest が「サトコ、今日は良くなかった。物事がどうこうというより彼女たちのプライドを傷つけた。みんなの前で言うのは良くないもう少し言い方がある」と言ってくれました。

「それにはっきりいうとサトコがやっている活動は C I A T の看板でもあるんだから一人の問題じゃない事を自覚して。今日の事でグループを出て行く人もいる可能性もあるんだから」といわれました。私は、(なんで?) という気持ちをぐっと抑えて

「言ってくれてありがとう」と言ってから

(ああ、ほんと言ってもらってよかったなあ) と思いました。

もっと、彼らのことを知る必要があるし、私自身もっと謙虚な姿勢で接さなければ・・・と思いました。

ボリビア人は・・・というのをとっぴらってほんとに一人の人として関係を築いていきたいと思っています。そして、周りにいい仲間がいる事にも感謝。「一人ではない」この言葉が身にしみる今日でした。

・・・で落ち込んでいたんだっけ・・・。これを書く前は少しもやもやした気分でしたが書いてるうちに整理できたのと、みんなに見てもらっているという実感で「前に進もう」と言う気持ちになりました。謙虚に謙虚に・・・ひとの気持ちをもっと考えられる人になりたいです。

7月18日 料理づくり

お元気ですか？こちらは、活動地によりかなり天候が違い改めて私ってタフだなあ・・・と思っています。

今日は、27 人の女性グループがある「サンラファエル」というところで現地にある自然の殺虫効果のある木の葉や、実から抽出するエキスをを使って殺虫剤を作りました。多分日本にも製品化されたものがあるかと思うのですが「ニーム」という木です。これに似た「バライソ」というのがこちらには沢山ありそれを応用しています。

このサンラファエルの女性はかなり活気的で日本でいえば大阪の人のようです。よく笑い、陽気で冗談好きで口が少しばかり悪い・・・。

ロスピノスは全く反対でもとデリケートな人たちなのでこちらも切り替えるのに大変です。

協力隊時代、萘を植えて行ったのですがそれが株が沢山増えてそれをこのサンラファエルのおばちゃんの家で株分けしようとしてきました。日本では確か 2 年くらいで花が咲いたと思うんですが、こっちは今年で 3 年目ですが花が咲く気配はありません。

株分けした萘を切り、みんなで「いらたま」を作りました。こっちの人の意見でミンチを入れたものも作りました。なかなか好評の感触。そのあと、アンケートをとるとニコニコマーク（こちらの人は字がかけない人が多いので）に豆を置いた人が沢山（殆ど）でした。

何か、私が料理が出来るのと勘違いされたく「今度は何をしよう？」と聞いてきました。

今は、トマトが安いし、もうすぐオレンジも取れるのでケチャップや、マーマレードかなと思レシピを探そうと思っています。改良かまども協力隊の村落隊員に来てもらって・・・と思っています。

7月20日 いろいろ

今日は、ほかし堆肥と、こちらに沢山あるさとうきびの絞りかす、バガスを使った堆肥をみんなで作りました。HP に写真を送るので見てください。ボリビアから日本への黒糖（っていうんだっけ）の輸出が始まるようです。

私は沖縄に行ったとき西表で買ったのをボリビア人に食べてもらったのですが「しょっぱすぎる！俺たちの方がずっと美味しい！」との事で

した。多分、ボリビアからの日本輸出は初めてだと思うのでこちらでもチェックしておいてくださいね。おいし〜よ！

後、こちらで日本野菜を作っているのですが、春菊はイマイチ不評で（だめかな〜）と思っていたところ

「サトコ、私の鶏は最近卵を産まなくて春菊をあげたら毎日卵を産むようになったのよ」というニュースがあり、どうやら鶏用になりそうです。種も簡単に取れるのでま、いいかな？と思っています。

7月30日 エコサントイレ

今日は、みなさんに相談したい事があります。

私の活動は、基本的に

●家庭菜園の有機野菜栽培指導を通して食生活の向上

●家畜の向上による、食生活の質向上

で今のところ3地区で活動していますが、先日市役所で活動のプレゼンをする機会があり、したところ新たに5つの地域から活動要請ができました。カリンニョーDIFARとして

「活動範囲予定ではないので出来ません」「お金がないので出来ません」

と言う事もできますが、今まで活動をして先ず彼らのやる気があるのが一番活動をスムーズに進めることが出来るのが実感でせっかくの機会だと思い、予算を見直して見ました。

今のところ、月ごとの最低経費は、私の生活費(200ドル)と燃料、活動経費を合わせて400ドル~500ドルです。当初の活動予定は2年間2005年の4月までですのちちょうど今の感じでいくとちょうど2005年の4月まで活動を続けることができます。ということは余裕はなし。

昨日は要請が出た村に出かけ、どんな事がしたいのか要請調査を行いました。そこでとても興味深い活動を住民のひとと描く事が出来ました。プルキーナアリーバという村は120家族が住む農村ですが、川の上流にあります。

国立アンポロ公園から流れる豊かな川があり、その川は下流地域の沢山の家族を潤しています。

日本では豊かに雨が降りますが、このあたりの年間雨量は400m~600m。川があるということは

農産物が取れるということ、収入に直接つながるのです。ところが住民の殆どはトイレを持っていません。トイレの必要性を感じていない。なのでみんなあっちこちにします。特に川のそば。その川は下流の人が飲料水として飲んでいっているのです。日本の様に消毒はしないから直接水道へいきます。煮沸して飲む、という知識は多くの人が持っているものの実践している人はわずかです。それが乳幼児の下痢や、死亡につながっている現状です。

プルキーナアリーバの村長さんは昨日どこから聞いてきたのか突然エコロジートイレの事を話し出しました。そのトイレは地面から2mの高さに登り用を足します。高さ2m×1mの箱(セメント仕様)に便と尿を分け便をする毎に灰かオガクズを入れます。紙もOK。大体6ヶ月くらいでいっぱいになり、一杯になると隣の槽に移ります。その間分解され、次の槽が一杯になったときは分解し終わったものは堆肥、しかも黒土と同じさらさらの堆肥になっている・・というトイレです。私はちょうど、日本に帰ったときネパールのNGOの「エコサントイレ」の講習に少し出てちょうど興味を持っていて、資料を日本から送ってもらったところでした。ほとんど同じデザインでした。問題は

1. 今までトイレを使わなかった人がトイレを使うか？

というのが、一番の問題で後はお金の問題です。1に関してはこちらが根気強く啓蒙活動をしていけばいいので、時間と人が必要ですね。

村長さんと話して村の中で興味がある人を4人選んで、きっちりやってもらい、効果を実感してもらい

その後、興味を持ってくれた人はコピーする、という進め方はどうだろうかということになりました。

今日は市役所に行き、4人分のトイレを作る予算、私がプルキーナアリーバに車でいく燃料費を相談しに行きました。市役所の意見は市役所としても、環境保全には力をいれなければならないのでとても大歓迎だということ。再来年あたりには1000家族を対象にした予算をどこから取ってくる予定があるという話でした。いきなり1000家族にトイレを建てるより、そうやって4つくらいのモデルを作り根回ししておいてくれたらとても助かる、との事でした。しかし当面の予算はなし・・そこで皆さんに相談です。

4つのトイレを建てるには

材料費 400ドル

燃料費 100ドル

工事費(人件費)20ドル

が必要です。人件費は建てる対象の人に持ってもらうとして、計500ドル(60000円)をどこから捻出するかです。これは、カリンニョ(DIFAR)としての活動予定範囲外なのでお金があればやる、という事です。心遣いがある方はご協力下さい。

8月17日 てんじくねずみを食べました

さて、てんじくねずみですが・・・・・食べました。コチャバンバという町はてんじくねずみを伝統料理としても食べ、他の肉に比べると少し高価でもある、ということで早速3人のグループの女性と料理法を学びに行ってきました。

つかまえるところから始まって、殺し方、毛をむしり4種類の料理を教えてくださいました。

わたしも、ウサギも食べた事もないし、てんじくねずみなんて(モルモット・・)飼ったこともないのです。

3人の女性は「あら、意外に肉がついてるのね」「殺すのも簡単でいいね」などといいながら楽しんでいましたが、私ははっきりいって吐きそう・・でした。3日後、他のグループの女性に覚えてきた3人の女性が早速教えました。

ところが、殺す段階になってみんな「かわいそう〜」といいはじめ一人がいいはじめるとそういう雰囲気になりつつあり(これはやばい！)

と思いコチャバンバでは一匹も殺さず

おばちゃんに任せていた私が「なにいったんの！ニワトリとどう違う！！」と第一弾を始めるはめに。強気をよそおっていましたが「サトコ顔、青いよ」といわれてしまいました。

皮をむく段階になったら又、一人の女性が「ねずみみたい。うえ〜」といいはじめた私は必死で「ねずみなわけないでしょ。英語では豚の仲間だし、スペイン語でもうさぎの仲間なんだから。それに、ねずみみたいにきたなくなくてベジタリアンだからお肉もすごく健康的。殆ど白身のお肉で脂肪は少なくコレステロールがなくてお肉のなかでも優れているお肉なんだよ！！」

と必死で方向を変えていました。(でも日本語ではてんじくねずみ・・なんですよ)

新たにはじめようと思っていたおばちゃんたちも「やっぱりニワトリに代えようかな」という始末。

でも、お肉をさばき料理をしはじめるとその形がなくなると「おいしそう〜。やっぱりうさぎでいいわ」

と又単純な人たちです。ところが食べる段階になって、失敗！と気づいたのが、コチャバンバで教えてもらったときは、あちらの人は頭もまるごとかじります。「ほったのお肉が美味しい」そう。足も爪付きでぼりぼり食べるし。同じボリビア人だからそう違いはないかなと思っていたのに、

食べはじめ「ひえ〜。私は頭が当たった」とまた始まってみんな普通に食べていたのに色々よみがえってきたみたいでし〜ん、として食べていました。お肉なんて残した事もない人たちが残っていて「どうしたの？美味しくなかった？」と聞くと「いや、美味しかったから子どもに食べさせたいのよ」と言っていました。ほんとかな？

日本ではどうやって食べていたんですかね？情報あれば教えてください。

9月11日 ホンジュラスより

実は、お知らせが3つあります。先日HPやカリンニョにも投稿したのですが、ボリビアのブルキーナアリーバというコミュニティを対象にした「エコサントイレ建設」のスポンサーが見つかりました。スポンサーは知り合いの誠ちゃんです。誠ちゃんからはメールで知らせを頂きました。誠ちゃんが今回寄付することになったきっかけは「子どもの下痢」に心が痛み、子どもがすくすく健康に育って欲しいという願いからだそうです。この願いが少しでも形になるようボリビアで誠ちゃんの心を受けて取り組んでいきたいと思えます。具体的な実地は11月からです。又、HPなどに写真、進行状況を投稿します。誠ちゃんが、いつの日かトイレを見にボリビアに来たらいいなと思っています。誠ちゃんをはじめ気にかけてくださった皆さん、ありがとうございました！

8月21日からAMD AというNGO組織の派遣でホンジュラスに来ています。皆さんには突然の知らせになってしまっ「え？ボリビアの方はどうなってるの？」と心配されるかも知れませんが、派遣は2ヶ月間で2ヶ月間の引継ぎはパートナーであるオリビアさんにしてきたので彼女が変わりなく2ヶ月間は活動を進めてくれます。またボリビアの方は乾季でもあるので野菜の栽培は今の所水がない地域は雨季まで待つのと、小動物は殆ど投入の方は終わったので、現地の人たちが責任を持って飼育しています。ボリビア帰国の11月にはトイレプロジェクトや雨季も始まるので活動は忙しくなりそうです。ホンジュラスの方も実は10日前に話しが決まり、NGOらしきものをボリビアでしているけれど、プロのNGO現場での仕事を見てみたい、という気持ちがあったので受けました。ですが、来たら研修どころか、たった一人で林業と野菜栽培の普及を農民の組織作りとプランニングからたった2ヶ月で結果を出さなければいけない・・・という状況です。なんでこんな短期間に？と思うと、このプロジェクトの母体となっているAMD AというNGOは医療団体が農業には知識はなかったため、2ヶ月という無理なスケジュールになってしまったこと。そして、今回の事業は、栄養改善を目的とした野菜栽培普及という目的で申請を起し申請先のAICAFという団体は「林業」がキーワードなので林業も入れ込んだ・・・という背景らしいです。とにかく来たかにはやるしかない・・・と思い今日で2週間目ですが活動を始めています。ホンジュラスというと、カリブ海！と思いきや、私の任地は内陸で亜熱帯地域。バナナやコーヒー、豆が主要生産物で、ニカラグアとの国境の村です。野菜を食べる習慣がボリビアよりもさらになく、毎日毎日豆の煮込みと、とうもろこしとタコスの原形のトルティージャ、同じものを食べて少々便秘気味です。野菜の種はもうみんな播きました。活動を比較的スムーズにすすめられるのは、ボリビアでの経験と、現地の農業普及員との連携を心がけています。私の帰国後のモニタリングも現地農業普及員にお願いしています。こちらの様子もこれからカリンニョにこの間投稿していくので応援よろしくをお願いします。もう一つの方はこちらも突然ですが、11月15日にボリビアで結婚式をします。誰の？私のです。いよいよ、このカリンニョのプロジェクトも息長く続けていきたいと思えます。

10月13日 奥地での暮らし

皆さん、こんにちは。ホンジュラスでの現地での活動は残すところ後、一週間となりました。残りの一回ずつの訪問で今回のプログラムの評価を参加者と共にじっくりとやり、その後の地元の農業機関に引き継ぎ私の活動は終了します。こうやってフィールドに出る度に自分が実力不足、勉強不足なのを感じるばかり。でも、新しい所で出会う人たち、経験は私にとってはかけがえの無い財産になるでしょう。今回のプログラムはプランニングから全部自分でやり、ある程度の結果を残し、来年度のモニタリングにつながるというプレッシャーもあってか協力隊時代の、「初めての経験なんだから健康で、地元の人と仲良くしてたらとりえず成功」でもなくカリンニョの活動の「先は長いんだ。ぼちぼち行こう」でもなく毎日ある意味どこかで緊張しながら過ごしていたと思えます。でも、これもいい経験だと思っています。ボリビアでは「通い」だったけど、今回の活動は電気もないところに3日間泊まりが多く村の暮らしにどっぷりと浸かりました。馬に乗って巡回し、村の伝統料理の作り方を教えてもらい、夜遅くまでろうそくの光で他愛のない話をして過ごしました。すごくシンプルな暮らしで、とても居心地が良かったです。7時半には寝床に着く暮らしでも私今所7時半にはもうとうとうとしています。9時を過ぎたら日差しがとても強くなり30度を超えます。夕方4時くらいまではとても仕事が出来ない日差しではないので、大体の人は早く起きて仕事をしたら昼ごはんの後はのんびりハンモックに揺られながら近所の人と話をしたり、コーヒータイムをして過ごします。夜になると、教会の集まりがありシャワーを浴びて着替をした人たちがランプがある家に集まり歌を歌ったり、聖書を読みます。後一週間で、この生活とこの人たちともお別れかと思うと・・・思ったほど淋しいとも感じていません。それは彼らがあまりにもあっけらかんとしているからかな。毎日毎日をのんびり生きている、でもとてもたくましい、謙虚な人たち。そうそう、こういう田舎に入ると必ず聞かれるのが「宗教」の事です。「何の宗教？」から始まって「神をどう考えてるか」「仏陀はどういう宗教なのか」などなど何一つ答えられない私はこちらも勉強不足。加えて「日本の面積は？」「東京の人口は？」「第二次世界大戦はどうして起こったの？」「日本はどうして豊かなの？」「日本の政党はいくつあるの？」・・・。2年間以上もスペイン語圏にいる私はもういまさら言葉がわからないといってごまかすこともできず・・・。今日は日曜日で、エンチラマダというホンジュラス料理を食べてもらいました。タコスの生地を揚げてその上にじゃがいも、ピーマン、ミンチを混ぜたものを挟みトマトソースをかけてキャベツのサラダを乗せてチーズを乗せて食べます。その後、チーズを作ってるおばさんの家に連れて行ってもらう取り立てのバターをそのままスプーンでコップ一杯食べました。取れたてのバターはヨーグルトとバターの合いの子ような風味でとてもさっぱりしていて美味しい！（カロリーはすごいでしょう）牛乳を沈殿させた上場みのバターをすくった後チーズを作ります。これも塩を入れる前の生まれたてのチーズはなんともプリプリしていて美味しいです。私はこれにタバスコをかけて食べるのがとても気に入りました。という訳で日曜日、ホンジュラスらしく食べて過ごしました。

10月19日 ホンジュラスとのお別れ

今日は2つあるコミュニティの一つと最後の日を過ごしました。2ヶ月間の活動を振り返り、本当に色々勉強させてもらったなあ感謝の気持ちでいっぱいです。中でも若者達とは仲良くなって、みんなすごく謙虚で素朴な若者たちで子ども達がこんな風に育ったらいいのになと思えました。最後にみんなに宛てた用意してきた手紙を読んでいると、中でもよく手伝ってくれたアビリアという女の子は途中で外に出て泣いていました。終わって一人一人握手をしに来てくれた時私が弟のように慕って、また使い走りでもあったウイメル顔を見ると突然涙があふれてきました。多分、もう会うことはない彼らです。活動の結果がどうか、そういう前に「ああ、私はこの人達に受け入れられてやってこれたんだなあ」と実感したひと時でした。活動期間中は時間に合わせない彼らにキレた時もあったけど、私とは全然違うペースの彼らです。いつの間にか穏やかに、どんな事も丸く収まってきました。昨日は最後の思い出に「ココ川」に遊びに行こう、と言われどこにあるのかも知らないがとてきれいなところだというのが楽しみになりました。「そんなに遠くないの？」という「そんなに遠くないよ・・・」ということは私にとって遠いなあ、と思いがら歩く事1時間。一緒に来ている子は最年少5歳の子もいます。2時間歩き続けたころ、一軒の家にたどり着きそこで昼ごはんを食べました。といっても突然予告もなしに10人以上の人間がやってきたのに昼ごはんは少量でもみんなにふるまわれます。ご飯を食べて又歩く事2時間、「帰りももしかして歩くの？」と聞くと「帰りは向こうに車があるはず」ということでやっと辿り着いた川はなるほど、歩いた甲斐あってとても広い大きな川でした。長野県の天竜川みたいにモーター付の渡し舟が時折下ってきていました。ここはもうニカラグアとの国境で川の向こうはニカラグアです。後で聞いたとかなりの危険地帯で一週間前もニカラグア人の豚が国境を越えてホンジュラス人の豆を1キロくらい食べたという事を発端に5人もの死者が出たという事を8歳の女の子から聞きました。散弾銃や、ライフルを持って歩いていく人も沢山いるそうです。この辺はニカラグア内戦時代に家族同士の復讐劇がまだまだ根強く残っているそうです。だから何が起こるか分からない。何はともあれ、さあ帰途につこうと言う時、突然雨が振ってきました。運が悪い事に当たっていた車はパンクしてしまっ動かない・・・みんなドツと疲れ

がでたけどそこで文句を言わないのがホンジュラス人。「さあ、早くかえりましょ。夜になってしまう」とさっさと歩き始めました。結局4時間、合計8時間も歩きました。最後の方は足がパンパンになっていました。5歳の男の子は「もう歩けないよ～」といてみんなでかわりばんこにおぶって歩きました。8歳以上は文句もいわずさっさと歩いています。きっと私より屈強な足を持っているでしょう。家に着いたら、お腹は減ってるし足は棒のよう。月曜日は、最後のコミュニティ訪問でその後首都に上がり、報告書を仕上げ26日はボリビアに帰国です。また、泣くだらうな・・・。

11月9日 2人の女の子がボリビアへ 事務局より

今月15日の 里子とパブロさんの結婚式に向けて 明日11日に 2人の女の子が 成田を出発します。日本で 里子と一緒に 報告会をしていた 根方 結子さんと 京都の20歳の女の子 深尾 藍さんです。19時発の ヴァリグ ブラジル航空です。

結子さんは その後 3ヶ月、 藍さんは 1ヶ月の予定で このプロジェクトの活動に 参加される予定です。予防注射も 打っていているし、2人とも とても元気で 安心ですがどうか、無事に到着して、無事に帰ってきてくださいと 祈っています。生物 生水には ご注意ください。現地には すでに 竹内 章雄さんと 瀧本 一が いるはず。なんだか ボリビアの 高地に元気印がはためくよう ううんん、、、、若い世代 がんばれ!!!という気持ちです。

11月18日 募金箱 事務局より

今年の2月に 里子と 結子さんが 東京で 報告会をさせてもらった際、持って行った貯金箱が 戻ってきました。「里子さんをサポートする会」を立ち上げた 青木郁子さん、星野葉子さんお世話様でした。早速 記念写真?をとり、中を開き、郵便局にもって行き、無事、カリンニョの郵便貯金口座に 入金しましたので ご報告いたします。8個の貯金箱で、合計43277円でした。たくさんの方が この貯金箱に お金を入れてくださったんだなあと思うしみじみと あり難い気持ちで一杯です。写真などは また HPに載せていただきたいと思っています。関わってくださった みなさん ありがとうございます。また 新しい貯金箱を送ってくださるとのこと、送らせて頂きます。よろしく願います。自分のところにも 置いてみようと思われる方は 連絡下さいね。

おしらせ

委員会の設立が必要です。

みなんさからの支援金で こうして活動が実現しました。実際に現地での暮らしの中で 予想外の出費が結構あるようです。車の保険、修理、部品の交換などの費用、泥棒が入ったための 被害。(盗難品には預かっていたパソコンなどもあったようで弁償をした) 家も安全面を考えて m 別の家を探しているようです。

そんな中で この活動を長く継続していくために助成金の申請を試みていこうと思います。不慣れな事で これも狭き門のようですが やっていく中で 学んでいく事も多いと思って実行に移すべく準備を始めています。そのためにも また 何かを決める時に 委員会が必要だと思っています。5~6人のメンバーで 老若男女とわず、我と思わん方は非 一緒にやってください。実際に会合は 年に数回くらいですが、必要な時には メールや電話などで 連絡を取り合ってやっていけたらと思っています。

ボリビアの布と塩の予約販売

現在 ボリビアに行っている 2人の若者に 布と塩の運びや産をお願いしています。

塩は ピンクのローズソルトといわれる岩塩です。今市場で売られているより 安くお分けできると思います。

布は インデオの人たちに 織ってもらうので 早めに頼まないといけません。大きさや 色、柄の希望を聞いて 織ってもらいます。壁掛けや敷物です。ちなみに 私はロスピノスのおばさんが織った 現地では馬の背にかける布を敷物に使っています。ヤクの毛だったと思うのですが、とても暖かく、素朴な風合いで気に入っています。ずっと続けている 小浜島のもずくもあります。必要な方は ご一報下さい。

活動経費について

▼ 振込用紙は全ての方に同封されていますが、事務処理上のことですので、ご了承下さい。